

令和6年度第2回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日 時 令和6年7月24日（水）14：30～15：35

2 場 所 福知山公立大学2号館1階コラボスペース

3 出席者

委員	（リモート参加）青山委員長、大久保職務代理 （会場参加）菊田委員、藤原委員、山口委員
福知山市	田村室長、山中課長、足立課長補佐、塩見主査、吉田職員
福知山公立 大学	川添学長、西田副学長（リモート）、倉田副学長、井上地域経営学部長、池 野情報学部長、倉本地域情報学研究科長、山田教務委員長、松山入試委員 長、河合学生支援委員長、畠中教職課程設置準備委員長、岸本事務局長、内 田次長、小林課長、荻野課長、竹元課長補佐、杉本主事

4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	【議題】 公立大学法人福知山公立大学 令和5年度業務の実績に係る 評価業務実績評価について	評価委員から公立大学法人への意見、質疑。

5 意見・質疑内容

（委員）

- 評価のポイントや評価の中で感じたことについて各委員からご意見をいただきたい。
その後大学のヒアリングを実施する。

（委員）

- 業務に関する評価報告書を拝見し、的確に詳細に記載されているため教育研究、社会
貢献への取組が手にとるように分かり、中期目標に基づいた記載がしっかりまとま
っている。
一方で年度計画について実績報告は詳細であるが計画自体が曖昧であり、そこを実績
に対して評価に落とし込むことに対して随分悩む事があった。次年度の計画の策定に
あたっては、検討するという記載だけではなく、法人によるアウトプットに対してど
のような恩恵がもたらされたのかという視点を計画の中に入れることもお願いした
い。
全体の取組としては大変評価する。

（委員）

- 教育研究に関して数多くの取組をされているなか、中期目標、年度計画に基づいた実
績を的確に把握して書かれており非常に読みやく感謝申し上げる。また、かねてより
課題とされていた留学の取組も努力され、大学院の設置も目標通り今年度からスタ

ートし、課題をひとつひとつクリアしていることが実績の中に読み取ることができ非常に敬意を表すところである。

(委員)

- 情報学部の進路実績のことや地域協働についても多くの実績を上げられていると思う。評価の資料については前年に比べ読んで理解できる部分が増えており、我々にわかりやすく書かれていることに感謝する。

(委員)

- 私が委員になった時には専門用語等によりわかりにくい部分があったが、非常にわかりやすくなってきている。ただ具体的な成果について数値化等があればより理解度が増すが、抽象的な部分もあり基準が曖昧となる点が評価として難しいと感じた。

(委員)

- 活動の内容については地域の方々と学生との地域協働に非常に努力されていると思う。年度計画は非常に簡素に書いてあるが、その実績は各委員の意見のとおり非常に細かなところまで整理してあったと感じる。情報学部と地域経営学部を融合させた運営は素晴らしい動きであり、社会問題をとらえる能力とデータサイエンスの知識を併せてソーシャルイノベーション人材を育成するということがヨーロッパで先行しているが、日本では福知山公立大学が先取りしていると感じた。
- 評価委員からの質問について回答書で短期間に丁寧に答えていただいているが、主な点を大学から説明をいただきたい。

(法人)

- 大学院認可に関して4という自己評価がふさわしいかという質問があったが、大学院認可については中身や経緯を含めて十分な設置準備ができたという事で4にした。入学定員の未充足という問題については、来年の入学定員をどの様に充足するかという策と、長期的な視点でリクルートをどの様におこなっていくかという策を練り、定員充足実現をめざしている。
- 卒業生の地元就職、定着についても質問が多く、改めて関心があることを認識した。人材循環システムの構築を中期目標で掲げているが、この循環システムは短期的視点で評価できず、長期的視点で考える必要がある。卒業後すぐにこの地域で就職するのではなく、一度都会で働いた学生が帰って来るということに期待したいと考えている。大学がこの地域に立地し人材を育て地域貢献をおこなうことが地域の活性化につながり人を呼び戻す力になると考えているが、大学だけの活動や努力で学生が帰って来ると人材循環システムを実現することは難しく、地域側の活動や努力も必要であると考えている。
- 具体性を持った年度計画目標を立てるべきとの指摘について、ある程度の抽象度の高い年度計画にとどまらざるをえないことはやむを得ないと自覚しており、報告書の中で具体的な成果を丁寧に記述する方針で記載した。来年度の計画については、できる限り具体的な年度計画を立てるように努力はしたいが無自覚に抽象的な記載としているわけでは無いことを理解いただきたい。

(法人)

- 昨年から2項目のポリシーを適用している。1番目は市民に対してできないことは約束しない。2番目は当該年度に実行したことは具体的に報告する。計画の考え方は抽象度の高い表記に留め、その内容の実績を評価委員会で評価していただきたい。

(委員)

- 非常に大きな実績をあげているにもかかわらず、年度計画は非常に簡素な記載となっている。年度計画を立てるときに詳細な実施計画の議論もあったはずであり、その

議論のレベルで年度計画の時点で大きな計画項目を設定いただけたらと感じる。

- 追加で何か質問をお願いしたい。

(委員)

- 就職率がほぼ100%でキャリア教育もしっかりされていることは高く評価する。ただ人材循環ということで見れば、東京や大阪など大都市に比べて就職先が少ない地域に大学を設けそこで地元で根差した人材育成、循環を掲げている以上年度を区切ってチェックしないといけないと考える。Uターンで卒業生が戻って来たときに地域に就職先があるのか、またそこに対して大学法人の取組はあるのか、戻ってもらうということが大きな課題であるがその観点で尋ねる。

(法人)

⇒ 本学は初めての卒業生が出てからまだ4年経ったところであるため未知数であるが、Uターン移住全般については大卒者が出身大学の地域に戻ることに研究を始めている。

(委員)

- アメリカのボストン商工会議所での調査の時にマサチューセッツ工科大学やハーバード大学の学生が卒業後ボストンに留まることはないが、学生間でネットワークが確立されていることがわかった。福知山においても卒業生のネットワークを大事にし、そのネットワークを媒体として福知山の良さをアピールすることがUターンのきっかけとなる。サテライトオフィスで仕事をすることが当たり前の時代になってきており、その環境整備が必要となる。ネットワークの確立のため卒業生の追跡調査がこれからは必要ではないかと思う。

(委員)

- 卒業生の追跡は個人情報に関係から困難ではあるが、その取組が成功し定住に繋がるようお願いしたい。
- 2つ目の質問になるが、大学院については是正事項もなく認可されたことを高く評価するが、一方で初年度定員未充足は大きな課題である。公表されている学生確保に関する見通しでは情報学部から約2割の進学とあり、これができていれば定員確保ができてはいるはずであるができていない。福知山公立大学からの進学ということは一貫した教育をするという観点では素晴らしいが、他の大学や企業からの社会人入学の取組も努力していただきたい。回答書記載以外で取組や意気込み等あればお聞かせ願う。

(法人)

⇒ 企業でリスクリングやリカレント教育を意識されている方にアピールできるよう仕組、運用を考えている。来年度すぐにとは難しいが可能な限り枠組みを広げておきたい。もう少し時間をいただければありがたい。

(委員)

- 龍谷大学は企業と連携協定を結び、締結先からは無料で1人を政策学研究科へ受入れており、大学院の充足率が非常に高い。文科省においてソーシャルイノベーションとの絡み合いで社会人を受け入れて育成することが必要だということを議論しており、福知山公立大学の情報学研究科を使って他地域の社会人を取り込んでいくことも必要になってくると考える。
- その他これまでの議論と全く違う観点でも結構だが他の委員で質問は。

(委員)

- 昨年シニアワークカレッジに出席し、地元で大学があることは素晴らしいことであると実感した。小中学校のプログラミング教室などや地域の企業との協働時に大学をPRすることで、地元の大学に通いたいと思う生徒が増えるのではないかと思います。

意見として申し上る。

(法人)

⇒ ご指摘の通りこの地域における本学の存在感が浸透することが長期的視点で非常に重要だと考えている。初等中等教育と大学との関係づけを積み重ねていくことは志願者の増加に繋がるため、これからも考えていく。

(法人)

⇒ 小中高大連携は大学で非常に強く意識しており、小中学校のプログラミング教室等の活動をしている。今年度新たにSTLという取組を始め、学生のサークルを地域貢献の主体と位置付け経費的な援助や支援を始めており、小中学生、高校生に近い世代の学生が地元アクセスするよう取り組んでいる。

(委員)

- 私は地元企業、経営者の立場で話を聞いており、企業側として地域と大学との関わりを今後ともより一層深く関わりをさせていただくよう大学に働きかけていかなければいけないと感じた。

(委員)

- 福知山モデルは市民目線で見ると抽象的である。福知山モデルの中に市街地活性化が掲げているが、例えば学生が住むだけでまちが変わり雰囲気も変わり市民目線でも変化がわかる。そして学生が住んでいる地域をどのように活性化していくかというような取組を考えていく。具体的なアクションがあれば市民目線から非常にわかりやすく、そのようなことが今後必要ではないかを感じる。福知山モデルという言葉がいい言葉であるがゆえにもう少し具体的な取組を考えられる余地はないかと思う。

(法人)

⇒ 中期目標6年間で福知山モデルが見える形にすることが課題であり、これから福知山モデルの内実を象徴的な意味でどこに据えるかを明確にしなければならない。不明確なままであれば単なる言葉だけになることはご意見のとおりと考える。

(委員)

- 福井県鯖江市に福井高専があり、子どもたちのプログラミング教室や情報に関わる講座やセミナー等を実施しており、その地域からの福井高専への志願者が増えている。そして鯖江市自体が情報のまちとして、鯖江に住みながらサテライトで都会から仕事を持ってきている人が増えてきており、市のオープンデータを使ったアプリ開発をおこなう事もおこなわれている。福知山の大学と地域の子どもたちが結びつき、将来その関係性を今度は地域づくりの中に活かしていくようなことが当然出てくると思う。まだ開学8年で様々な実績があるなか、まだまだこれから実績を作り上げていく面白味があると感じている。
- 以上で質問への回答は得られたとの理解で福知山公立大学へのヒアリングを終了にさせていただく。